

# がんばれ国境の島対馬 ふるさと応援基金活用事業

平成20年10月からスタートした対馬市の「ふるさと納税制度」は8年目に入りました。寄付者の皆さまからいただいたご寄付は基金として積立てており、平成23年度からはこの基金を活用して事業を行っています。

今回は、昨年度(平成26年度)の取り組み内容をご報告いたします。

## 平成26年度実施事業



現在のつしま図書館のエトピリカ文庫

あたたかいご支援  
ありがとうございました。

**事業名: エトピリカ文庫図書購入事業**  
**基金充当額: 50,000円**

(施策区分⑦: 市長が特にふるさと対馬の将来に向けて寄与すると認める事業)

“国境の島”対馬に在住する市民の方々に領土問題について考えていただくため、エトピリカ文庫(領土問題に関する書籍を収めた文庫)の図書を購入しました。

エトピリカ文庫のブースは平成22年10月に対馬市立つしま図書館に設置し、この基金を活用して平成23年度、24年度に図書を購入しましたが、26年度にさらに拡充しました。

今後も、つしま図書館で市民の皆様にご覧いただきたいと考えております。



つしま図書館内の様子

# 平成26年度に実施できなかった事業

## 事業名: 自然・生物保護活用促進事業

【龍良山原始林、洲藻白嶽原始林、御嶽鳥類繁殖地における植物・昆虫調査】

基金予定充当額: 876,000円(実施額は0円)

(施策区分①: 豊かな自然環境の保全や歴史的景観の維持、再生に関する事業)

ユネスコエコパークの核心地域に予定していた、御嶽(みたけ)・白嶽(しらたけ)・龍良(たてら)の三山の植物相調査を行い、ユネスコエコパーク登録に向けた植物相データとして活用することを予定していましたが、職員が事前調査を行ったところ、シカ・イノシシの食草被害により下層植生が荒らされていたため、この基金を有効活用できないと考え、予定していた調査を断念しました。



平成26年7月事前調査時の御嶽(みたけ)  
下層植生がほとんど見られませんでした。



ツシマジカ  
全島で多数見られます。

※ ユネスコエコパークとは……

「生態系の保全」と「持続可能な利活用の調和」を目的とする区域のことで、保護・保全だけでなく自然と人間社会の共生に重点が置かれています。日本では7件登録されており、対馬市では、ユネスコエコパークの登録を目指しています。

## 平成27年度も活用事業決定！

ふるさと納税で集まったご寄付を使って行う事業は、各課から選ばれた審査員に対して事業提案者がプレゼンテーションを行い、質疑応答と審査を経て、一定基準を満たした事業のみが採択され、実施されます。

平成27年度は1件の事業(2,364,000円)が採択されました。

これからも寄付いただく皆さまの“想い”をかたちにする事業に対してこの基金を活用し、対馬の特性や地域資源を活かしたまちづくりのために活かしていきます。



庁内プレゼンテーションの様子。  
事業内容は丁寧に職員議論されて決定・実施されます。  
この審査会は庁内研修の場としても非常に有意義な機会になっています。

## 事業名: 海洋保護区設定推進PRツール制作

基金充当額: 2,364,000円(予定)

(施策区分①: 豊かな自然環境の保全や歴史的景観の維持、再生に関する事業)

対馬海域の水産資源を持続的に利用していくため、海洋保護区設定のPR用のツール(ホームページ、対馬市CATV番組、海底地形模型)を制作し、資源管理型漁業の確立と海洋保護区設定の必要性を広く周知していきます。